

きらり通信

Vol.11

神奈川県立子ども自立生活支援センター

平塚市片岡991-1 TEL.0463-56-0303

<https://www.pref.kanagawa.jp/div/1329>

編集 広報委員会 印刷 貴峰荘ワークピア

子どもたちの安心・安全のために

支援部長 菴谷明日子

支援部長として着任し2年目となりました菴谷（いおや）と申します。久しぶりの児童施設での勤務となり、未だ目まぐるしく感じていますが、きらりの子どもたちの輝く笑顔に励まされる毎日です。

さて、当センターは平成29年に開設し、多くの子どもたちに寄り添いながら、おかげさまで持ちまして開設10年という節目の年を迎えることができました。この間の、地域の皆様方や関係機関の方々の温かいご支援、ご協力に心より感謝申し上げます。

きらりでは開設以来、『温かい生活を提供し、子どもの「生きる力」と「つながる力」を育む』ことを基本理念の第一に掲げ、施設を運営してまいりました。この間、子どもを取り巻く施策等にも大きな変化がありました。令和4年の児童福祉法の改正においては、社会的養護の子どもへの権利擁護の強化を図るため「子どもの意見表明等支援事業」が位置づけられました。令和5年には「こどもまんなか社会」の実現のため、「こども基本法」が整備され「こども家庭庁」も創設されました。障害福祉分野でも、当県において「神奈川県当事者目線の障害福祉推進条例」が施行される等、子どもや当事者の視点に立って支援をしていくことが法制度上でも明確化されま

した。

当センターでも継続的に子どもたちの意見表明支援に取り組んできましたが、令和6年度からは県の意見表明支援事業「チームあどぼ」の活動を全所的に展開し、子どもたちが自身の意見や思いを主体的に表明できる機会をさらに拡大しています。いま、きらりの子どもたちは、こうした様々な機会の中から自身で相談の場を選択し、自分なりの表現で思いを表明しています。センター内外の多様な支援者と交流しフィードバックをうけることにより、「生きる力」や「つながる力」がさらに蓄えられ、子どもたちの成長につながっていると感じています。

また、今年の12月25日には、こうした子ども達の暮らしの根幹である施設等での性被害を防止するため、「こども性暴力防止法」が施行されます。この法律には施設や学校等、子どもに接する場での子どもへの性暴力を防ぎ、子どもの心と身体を守るための様々な取り組みが規定されており、当センターにも子どもに対する性暴力の「未然防止」や「早期発見」、発生した場合の「子どもの保護・支援や再発防止」等に取り組むことが義務付けられます。これまでも、虐待防止や身体拘束の適正化、意見表明支援の拡充等、様々な方法で子どもたちの権利擁護に取り組んできましたが、引き続き、こども性暴力の防止にも遺漏のないよう取り組み、きらりでの子どもたちの生活が、より安心・安全なものとなるよう努めてまいります。



昨年度きらり祭での「きらりの木」

1. チームあどぼのこと

あなたのきもちやおもいを
だれかにはなしたいとき
つたえたいときに
てつだってくれるひとだよ

きもちって？
うれしい、たのしい、かわいい、しんぱい、いやだな、いろいろ…
すべてあなたのたいせつなきもちだよ！



意見表明等支援事業「チームあどぼ」の子どもへの説明資料より

～つながりの先の「新しい景色」へ～

副所長兼医務課長 齋藤 久

今年の4月に「きらり」に転勤することになった時に、どのような施設なのかを知るために、まずは就活生のように「きらり」のホームページを調べることから始めました。

そこには、施設運営にあたっての3つの基本理念と6つの基本方針が掲げられており、その中でも「地域に根ざした施設づくり」、「多職種連携による支援体制の確立」について考えたことを書きたいと思います。

○「地域に根ざした施設づくり」

「きらり」に来てから地域との結びつきを感じたことがいくつもありましたが、最初に感じたのは、「きらり」の施設歌であり金目小学校・金目中学校 五領ヶ台分校の校歌でもある「きらり空に咲く」を知ったときです。ご存知のとおり、この曲は、地元平塚の音楽家ミマスさんに作詞・作曲を依頼してできあがった曲です。私はこの歌を分校の入学式で初めて聴き、親しみやすい曲にすぐに心惹かれました。

また、これも「きらり」に来て初めて知ったのですが、明治期に秋山博氏という鍼医が、県立平塚盲学校の前身となる「私立中郡盲人学校」を金目地域に開校しました。学校の経費は寄付金でまかなっていましたが、寄付金集めには地域の住民などが協力するなど、地域で支えていたとのことです。

このように福祉教育への理解がある地域に「きらり」があることは大変幸運なことだと思います。現在も地域の皆様方に色々なかたちで支えていただいております、これからも地域との交流を進め、結びつきを大切にしながら、地域に根ざした施設にしていきたいと思ひます。

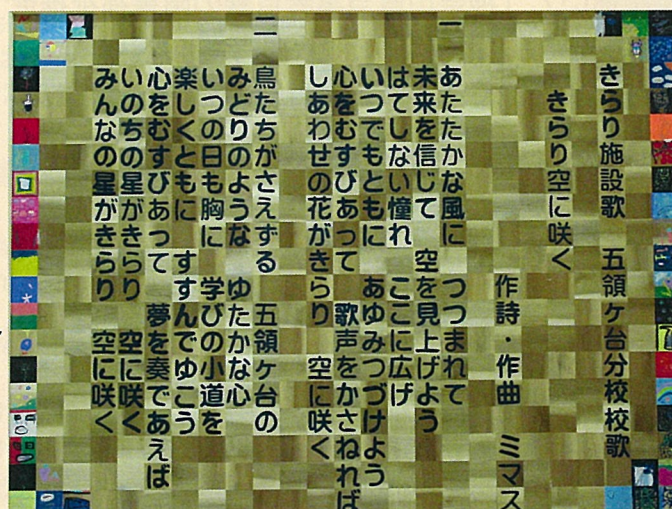
さらに、基本方針では、地域に根ざした施設づくりを進めるため、施設の専門機能を生かし、関係機関への後方支援や人材育成を行うこととしています。今年度から新たに精神科の医師を迎え、充実した精神科診療体制が整ったことか

ら、これからは「きらり」の子どもたちへの医療面の支援はもちろんのこと、地域の関係機関や児童福祉施設と連携し、「きらり」が医療連携の拠点として地域に貢献していくことを目指していきたいと考えているところです。

○「多職種連携による支援体制の確立」

現在、「きらり」には、福祉職、心理職、保育士、医師、看護師、管理栄養士、事務職、分校の教員といった様々な職種の職員が、それぞれ専門性や役割を持つとともに、職種を超えて連携しながら、子どもの最善の利益を優先した支援を目指して日々努力しています。同じ利用者の支援についても、職種によって見方も異なり、新たな気づきを得ることも多くあります。多様な職種の職員が様々な視点で支援を検討できることが「きらり」の強みであり、職員同士が日々の関わりの中で自由に意見を交換し、支援に活かしていく、そのような流れを作っていくことが支援の質を高めることにつながると考えます。

今年「きらり」は開設10年目を迎えました。これまで培ってきた地域とのつながりや多職種の連携がさらに進み、10年後の「きらり」に「新しい景色」を加えることができるよう、今から一歩ずつ進んでいきます。



きらり施設歌

きらりの「つながる力」～地域・社会・未来～

子ども第一課 みらい

当乳児院は、旧神奈川県立中里学園よりこの地に拠点を移し10年の節目を迎えようとしています。子どもたちの健やかな成長を支えるためには、施設の中だけではなく地域や社会との「つながり」が欠かせないことを実感してまいりました。子どもたちは、絵本の読み聞かせや、日常のお手伝いで来ていただくボランティアの皆さまや、地域行事への参加で関わっていただく地域の皆さまとのふれあいを通して、多くの温かさや学びを得てきました。

そして、児童相談所や地域行政などの関係機関や、地域医療、地域福祉等（療育機関、幼稚園など）との連携は、子どもたちひとりひとりに寄り添った支援につながっています。さらに、児童養護施設や里親へ委託された子どもたちは乳児院に「里帰り」をしてきています。成長した姿や笑顔、頑張っている近況報告は、職員にとって何よりの喜びであり、つながりを実感する大切な機会です。いつでも帰ってこられる場所であり続けることも、私たちの大切な役割だと思っています。

子どもたちの未来は多くの人との出会いや経験、つながりの中で育まれていきます。これからも、人と人のつながりを大切にしながら、子どもたちひとりひとりの未来を支える場所であり続けたいと思います。



子ども第三課 ひばり

つばめフロアでは、言葉で自分の意思を伝えることが難しい子どもがほとんどです。そのため、支援にも困難さが生じています。そうした子どもの将来を考えていくにあたり、児童相談所や学校等の外部との連携は欠かせないものとなっています。特に、学校ではつばめの中での生活とは違った子どもの一面を見ることができます。その様子をつばめと共有することで、その子どもに合わせたより良い支援を見つけていくきっかけとなります。

また、近年は低学年の子どもも増えたこともあり、関係機関だけでなく、ご家族との繋がりも重要となってきています。面会や外出などを通して、子ども本人も楽しむことができるだけでなく、ご家族も新たな子どもの一面に気が付けるきっかけとなります。職員もご家族に、子どもの様子を定期的にお伝えすることで、きらりとの信頼関係を築けていけるように取り組んでいます。そうして、ご家族と一緒に子どもの成長を見守っていきます。

かもめ・かわせみフロアは高校生を中心に小学生から高校生まで幅広い子どもが共に生活をしています。高校生でも学年が高い子どもが多く、自立に向け普段の生活の中でお風呂掃除や食器洗い、職員と一緒に洗濯物を畳むなど、できることが増えています。校外実習などに行くと、うまくいったことやうまくいかなかったこともすべて言葉に出せるようになると成長を感じます。また、地域でイベントなどがあれば積極的に参加する子どももいて、さつまいもの芋苗植えや町内会主催の清掃にも参加をしていました。コミュニケーションが苦手な子どもでも職員とともに分からないことや質問があれば頑張って話している姿に日々成長を感じています。今後も日々の生活の中で、一人一人が成長できる環境、過ごしやすい環境を目指していきます。

小学生から高校生の女子が生活するめじろ・つぐみフロアは他者とコミュニケーションをとることが難しい子どもが多くいます。そのため、日頃の職員との関わり以外にも近隣の方と関われる機会を大切にしています。例えば、今年は5月に、ある地域のお祭りに参加してきました。お祭りでは地域の方が販売している洋服や食べ物を購入したり、友達とお神輿を見たりするなど楽しい時間を過ごしました。また、お祭り以外にも地域清掃のボランティアに参加し、地域に貢献する子どももいます。普段の生活は主に職員とかかわっている時間が長いですが、この時は地域の方とも関わりをもち、いつもとは違う特別な時間を過ごすことができました。

地域の方と子ども達のつながりを大切にし、子ども達の自立ややりたいことなど未来にむけて職員間だけではなく、ご家族や関係機関とも足並みをそろえて成長を見守っていききたいと思います。



地域清掃

子ども第三課 ぎんが

幼児と低学年学童男子が生活しているムーンフロアでは、それぞれの場所で人とのつながりを感じながら、スモールステップで未来への準備を進めています。

幼児は平塚市内の幼稚園に通いながら、先生や友だちとのつながりを日々深めています。園内の畑で野菜を育てる活動では、みんなで協力して作業を進めたり、収穫した野菜を分け合ったりすることで、人との関わり方の楽しさを感じています。また、近所の小学校への授業見学では、小学生のお兄さんやお姉さんとの交流を通じて、少し先の未来への期待を膨らませています。

小学生は、敷地内の五領ヶ台分校に通いながら、先生や友だちとの信頼関係を築いています。分校とフロアが密に連携を取ることで、子どもたちは「困ったときは大人に頼っていいんだ」という安心感を持ちながら日々成長しています。

高学年学童男子と中学生が生活している男子のアースフロアでは、地域参加を大切にしています。日頃は公民館で開かれている無料学習教室に通ったり、市の清掃ボランティア活動に参加したりしています。年間で見ると、春は近隣の畑でさつまいもの苗植え体験

をさせてもらい、夏は大山に登り、金目川で水遊びをします。秋には植えたさつま芋を収穫して焼き芋にし、新年はみんなで近所のお寺に初詣に行きます。このような四季折々の行事を通じて子どもたちは一回り大きくなっていきます。

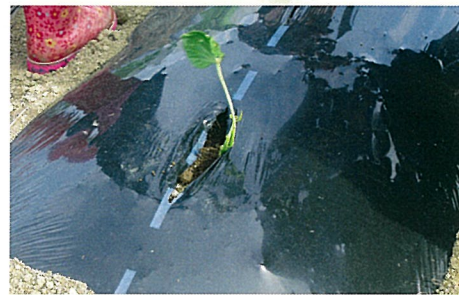
きらりという家から一歩外に出て、地域という「場」や、そこで暮らす「人」と接し、施設だけではできない体験をする。その積み重ねが、子どもたちがやがて戻る地域社会への所属意識や「地域で暮らす」という感覚を育んでいくように思います。今後も地域の力を借りながら、子どもたちの成長を見守っていきたいと考えます。

ボラリスは小学生と中学生が生活している女子のフロアです。今回アンケートを実施し「将来の夢を教えてください」と聞いてみました。将来なりたいたいものの一番人気は「アイドル」でした。DVDに合わせて、みんなで楽しくダンスの練習をしています。毎日踊っているのでもとても上手です。憧れているアーティストのように、「見てくれる人が元気になるようなアイドルになりたい。」という思いがあるようです。

「パティシエ」も人気です。お菓子が大好きという理由が一番ですが、フロアで実施する調理実習の時も積極的に調理に取り組み、楽しんでいます。ほかには「保育士」「空手の選手」などがあがっていました。夢を大切に、これからも分校の勉強、日々の活動を頑張っていってほしいです。



将来の夢 保育士



芋苗植え

きらりリレートーク

～夢に向かって～

子ども第二課 山岸 秀樹フロアリーダー

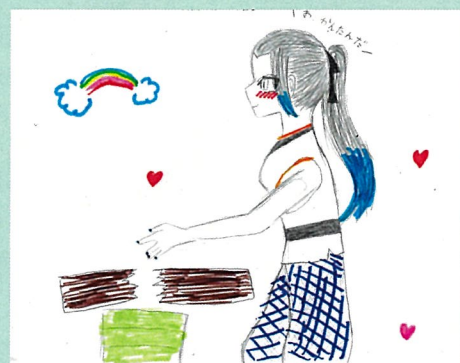
昨年の移行支援会議で、「将来は一人暮らしをしたいけれど、今はまだ自信がないので、まずはグループホームで頑張りたい」としっかりと気持ちを伝えてくれたAくん。この春、その言葉どおりにグループホームへと移行して行きました。自分の未来を思い描きながら、今の自分に合った一歩を選び取った姿は、とてもあたたかく心に残っています。新しい環境の中での生活は決して簡単なことばかりではありませんが、Aくんは周りの支えを受けながら少しずつ目標へと進んでいることと思います。

子どもたちが将来の夢や希望を語るとき、その言葉は決して大きな目標だけではありません。「こんな風に暮らしたい」「こんなことができるようになりたい」という、日々の積み重ねの中から生まれる小さな願いも、立派な夢の一つです。遊びや学びの中で「できた」「わかった」という経験を重ねることで、少しずつ自信が育ち、自分の未来を思い描く力につながっていきます。Aくんのように、自分の気持ちを言葉にして未来の選択をする姿は、子どもたちの成長の確かな一

歩だと感じます。

こうした歩みは、その子らしいペースで「できること」がゆっくり広がっていく過程でもあります。急いだり背伸びをしたりするのではなく、日々の中で自然に育っていく力です。友達や職員と笑い合いながら何かに取り組んだ時間や、誰かにやさしくしてもらった記憶は、子どもたちが未来を思い描くときの大切な支えになります。

かもめ・かわせみフロアでは、子どもたちが安心して自分の未来や希望を話せる場所であることを、これからも大切にしていきたいと思っています。どんな夢でもまずは「いいね」と受け止められる環境を整えながら、子どもたちの可能性がまるく、のびやかに広がっていくよう日々の関わりを続けていきます。子どもたちの声に耳を傾け、思いに寄り添った支援を行いたいと考えています。



将来の夢 空手の選手

編集後記

おかげさまで、きらりは今年開設10周年を迎えることができました。

10周年を記念し、プロジェクトの立ち上げや、イベントを考えております。右は10周年記念の一環として、作成したエンブレムの1つです。お見掛けすることもあると思いますがよろしくお願いします。

きらり通信 Vol.12では、10周年特集号として発行させていただく予定です。



ボランティア募集



行事等のお手伝いや、学習補助、衣類の補修等のボランティア活動をしていただける方を募集しています。資格や経験は問いません。ご興味のある方はお気軽にご連絡ください。

短期入所サービス

当センターでは年齢は18歳までの知的障害のある方を対象に、短期入所サービスを提供しています。ご利用を希望される方は、下記連絡先までご連絡ください。

施設開放

地域におけるコミュニティづくりや文化活動に貢献できるよう、当センターの体育館などの貸し出しを検討しています。利用希望される方は、下記連絡先までお問い合わせください。

研修案内

子どもの発達や、発達障害、愛着の問題など、「きらり」が支援する子どもに関するテーマについて、公開研修を企画開催しています。最新情報や内容・日程については、当センターホームページ内「子ども自立生活支援センター公開専門研修計画」をご参照ください。

問合せ先：0463 - 56 - 0314

当センター自立支援課（平日8：30～17：15）



ともに生きる社会
かながわ憲章

KANAGAWA CHARTER for an Inclusive Society